

ISHIKAWA DESIGN AWARD

令和 7 年度 石川デザイン賞

2025

令和 7 年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■ 目 的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■ 表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■ 表彰対象者の選考

①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。

②選考にあたっては、

- ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
- ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
- ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものなどの観点から審査する。

■ 表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。

表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■ 石川デザイン賞選考委員名簿

委 員 長	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学名誉教授
委 員	飴谷義博	(一社)石川県繊維協会専務理事
〃	飯尾 豊	石川県インテリアデザイン協会理事長
〃	大窪 誠	金沢市経済局クラフト政策推進課長
〃	梶井紀孝	石川県工業試験場デザイン開発室長
〃	黒田悟志	石川県プロダクトデザイン協会副会長
〃	齋藤 健	石川県商工労働部産業政策課長
〃	東田修一	石川県ビジュアルデザイン協会理事長
〃	長岡満寿夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	西田哲次	金沢商工会議所常務理事
〃	松本いづみ	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	水野一郎	建築家・金沢工業大学名誉教授

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地（〒920-8203）
石川県地場産業振興センター新館4階
TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242
ホームページ <https://design-ishikawa.jp>



デザインの力。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告はもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したもの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象にしています。

令和7年度は、右記の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長 **山本 洋志**

◎ 受賞者の紹介



小倉織物株式会社
代表取締役社長 小倉 久英

受賞理由

日本で唯一となる後染め広幅シルクジャガードを織る高度な技術を継承しており、皇室献上品や国内外のファッションブランドに採用されるなど高く評価されている。後継世代が中心となり、SNS発信やB to Cブランド「OGURA」を立ち上げ、新たな価値創造に挑戦している。

1895年(明治28年)創業の小倉織物は、小松織物産地では最古の歴史を有する織物工場で、日本で唯一となる後染め広幅シルクジャガードを織る企業として知られており、その高度な技術を今に継承しています。

ジャガード織において「シルク」「広幅」「後染め」という条件は、技術的には至難の業です。繊細かつ膨大な数の絹糸を扱う織物技術者にとって、「幅を広げる」ということは決して容易ではありません。幅が広くなればなるほど織柄のゆがみに直結するからです。また後染めは染工程で生地が縮むため、それを換算した織物技術者の経験や勘が不可欠となります。

こうして磨き上げられた小倉織物の生地は、1953年に明仁皇太子(現上皇陛下)がエリザベス女王の戴冠式の際にイギリス王室への贈呈品として採用されました。1970年代以降に高級メゾンへ生地提供をはじめ、近年では、2020年の東京オリンピックの公式スカーフやMAME黒河内ブランドのドレス、ヨウジヤマモトと人気アニメ「鬼滅の刃」とがコラボレーションしたコートに採用されるなど、時代を彩ってきました。

しかし一方で、安価でカジュアルなファッションが人気を集めるなか、企業として苦戦を強いられているのも現状です。それに対して小倉社長のご息女お二人が「発信力」で挑んでいます。SNSで新たなファンを開拓したり、クラウドファンディングを活用して2023年にBtoCの自社ブランド「OGURA」を立ち上げました。オンラインショップでは、洗濯機で洗えるシルクの枕カバーや、レンズの代わりに生地を使った見えないメガネの「Kinu-Glass」が話題となりました。

小倉社長は「オンリーワンの技術を武器に、求められる商品を世に送り出し、伝統を繋いでいきたい。」と、ブランド力の強化を目指しています。



高級シルクを貼り、あえて「見えないメガネ」にする
ことで、ファッションアイテムとしての面白さを追求した「Kinu-Glass」



ジャガード織による繊細で立体感のある模様
が特徴のスカーフ

DATA

- | | | | |
|-------|---------|--------|---------------|
| ■ 代表者 | 小倉 久英 | ■ 主な業務 | 後染め広幅シルクジャカード |
| ■ 所在地 | 小松市新町86 | | 生地の製造、 |
| ■ 創業 | 1895年 | | 高機能合繊生地の製造 |
| ■ 従業員 | 11名 | | |



株式会社山岸製作所
代表取締役社長 山岸 晋作

受賞理由

ショールーム型オフィスの導入によるオフィス家具の販売を通じ、フリーアドレスやテレワークなど新しい働き方を提案・推奨するほか、住宅家具の体験型販売により、「モノ売り」から豊かな生き方を提案する「コト売り」へと転換し、新たな価値の創出に取り組んでいる。

1936年(昭和11年)創業の山岸製作所は、当初の注文家具を主体とした家具製造販売からオフィス家具や住宅家具などの既製家具の販売へと軸足を移し、近年は家具という「モノ売り」から家具が配置された空間や場の体験を通してライフスタイルの提案を行う「コト売り」へと舵を切っています。

現在のスタイルに転換したきっかけは、長年、生業としてきた家具製造のための工場の閉鎖でした。その後の事業展開として着目したのが、自社の社員の働く姿をそのまま顧客に見せるショールーム型オフィスという考え方の導入でした。「働いている姿をライブで見てもらうほど説得力のあるプレゼンテーションはありません。」と山岸社長が語るように、このショールーム型オフィス「L'SCENA(リシェーナ)」(金沢市栗崎町)には、約1,500社、3,000人が訪れています。

同社では、これまでの経験を生かし、柔軟性を重視した独自のワークスタイルを構築し、フリーアドレスやデジタル化、フレックスタイム、テレワークなどを段階的に導入してきました。2024年にはその働き方が評価され、「テレワークトップランナー2024総務大臣賞」を受賞しています。

また、もう一つの事業の柱が、住まいをトータルにコーディネートするショールーム「L'INTERNO(リンテルノ)」(金沢市小金町)です。イタリアのモダン家具を中心に人気ブランド家具を揃え、具体的な暮らしをイメージできる場を展開しています。ここでは調香や照明と食、アートなど多彩なテーマの体験型イベントを開催してきました。

これまでの家具販売というモノの提供にとどまらずに、働き方や暮らし方を実感してもらうことによって、これからの質の高い豊かな生活のあり方を北陸から発信しています。



時間や場所にとらわれない柔軟な働き
方を提案するショールーム型オフィスの体験型イベントを開催してきた「L'SCENA」



「L'INTERNO」では、照明と食、アートなど
各種施設向け家具の販売、家具・インテリア用品の販売

DATA

- | | | | |
|-------|--|--------|---------------|
| ■ 代表者 | 山岸 晋作 | ■ 主な業務 | オフィス家具・ |
| ■ 所在地 | L'SCENA(リシェーナ) 金沢市栗崎町5-32
L'INTERNO(リンテルノ) 金沢市小金町3-31 | | 各種施設向け家具の販売、 |
| ■ 設立 | 1963年2月 | | 家具・インテリア用品の販売 |
| ■ 従業員 | 32名 | | |



株式会社金沢計画研究所
代表取締役社長 漆崎 義和

受賞理由

地域の文化や風土を重視し、その上で創造性の高い建築を数多く手がけている。全国的な賞も数多く受賞し、石川県の建築文化の発展に寄与している。また能登半島地震発生後、公共施設や商業施設の改修や公営住宅の設計など、能登の復旧復興に尽力している。

金沢計画研究所は1979年(昭和54年)に創設された建築事務所で、創設以来、発注者の要望に単に応えるのではなく、「対話の積み重ね」によって、発注者や利用者にとって本当に必要なもの、求めているものを導き出して、設計に反映していくことをモットーとしています。その上で、石川をはじめとした地域の文化や風土を尊重しつつ、創造性の高い建築を目指してきました。

そのようなスタンスで活動する研究所の作品が、はじめて全国的に評価されたのは、1984年に建設大臣表彰に選ばれた「鳥越村営住宅別宮宮ノ森団地」です。丈夫でも山村景観にマッチしない鉄筋造りを避け、豪雪地に適した木造高床式としたことが高く評価されました。

1997年にグッドデザイン大賞を受賞した「金沢市民芸術村」は、旧紡績工場倉庫の再生というハード面のデザインだけではなく、市民主体の創作の場を運営していくソフト面のデザインも評価され、デザインや建築の分野に大きなインパクトを与えました。

1999年に優良木造施設推奨審査で農林水産大臣賞を受賞した「手作り木工館もく遊りん」は、山林の傾斜地に溶け込むように曲面と勾配を活かした建築になっていて、併せて内装や家具も手がけています。

近年では、子どもたちが屋内を存分に走り回れるように、柱を用いず、放射状の相持ち登り梁と二重筒状耐力壁面で構成した「石川県森林公園屋内木育施設もりのひみつきち」が木材利用推進コンクールの環境大臣賞や石川県デザイン展の県知事賞に選ばれるなど、これまで数多くの作品がさまざまな賞を受賞しています。

また能登半島地震発生後、ほぼ毎週能登に通い、七尾市では能登食祭市場などの商業施設や小・中学校、公民館、復興住宅の改修と設計、輪島市では公民館の改修を担っています。



紡績工場倉庫群を改修し、演劇・美術・音楽
などの創造の場になった「金沢市民芸術村」



県産木材をふんだんに使った全天候型
木育施設「もりのひみつきち」

DATA

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|-----------|
| ■ 代表者 | 漆崎 義和 | ■ 主な業務 | 建築設計・監理・ |
| ■ 所在地 | 金沢市西泉1-66-1
スプリングポイント6F | | コンサルタント業務 |
| ■ 創業 | 1979年12月 | | |